

第1回丘珠空港機能強化検討会 議事概要

日時：令和5年3月22日（水）15：30～17：05

場所：TKP札幌カンファレンスセンター カンファレンスルーム6B

出席者：委員19名、札幌市（事務局）5名

1 開会

(1) 出席者紹介

(2) 挨拶（札幌市まちづくり政策局 村瀬都市計画担当局長）

- ・ 昨年11月、札幌市は「丘珠空港の将来像」を策定し、関係者の皆様のご理解・ご協力を頂きながら進めさせていただきたいと考えており、忌憚のないご意見・情報等をお願いしたい。
- ・ 令和4年度の丘珠空港の利用者数が31万人以上とコロナ禍前以上の数字となる見込みで、来年度も航空会社から路線が増便されると聞いており、ますます活用される空港となるが、一方で課題も出てくると考える。将来像の実現に向けて、本検討会の中で関係の皆様としっかり議論をさせていただき、前へ進めさせていただきたい。

2 議事

(1) 丘珠空港機能強化検討会の設立について（検討会設立、座長選出）

- ・ 検討会の設立について異議なしのため、検討会を設立する。
- ・ 座長は、北海道大学公共政策大学院客員教授の石井吉春委員に就任いただくことを事務局から提案し、異議なしのため、石井委員が就任することで決定。

(2) 丘珠空港の将来像について（札幌市より概要説明）

- ・ 丘珠空港の将来像の概要について説明。

(3) 検討事項（主な意見の概要）

① 今後の増便に伴う対応

<航空機発着便数の想定>

- ・ 今年の夏ダイヤの後半から増便になることが想定され、現在の運用の発着上限である枠を超える。
- ・ 札幌市としては、航空機騒音の環境基準の範囲内で、可能な限り多くの路線・便数を就航していただき、利便性の向上や経済活性化を図っていきたい。
- ・ 陸上自衛隊における訓練時間の確保、管制・除雪の負担増などの課題があるため、関係者で協議が必要と認識。

<空港運用への影響>

- ・ 発着枠が超過する場合、運用のルール作りは必要と考える。
- ・ 増便に伴い、陸上自衛隊の低空域での訓練に影響が出てくると思う。
- ・ 管制や除雪への影響ができる限り抑えられるよう協力していきたい。
- ・ 現ターミナルビルは築30年が経過し、38万5千人規模の利用者を想定して設計されているが、旅客数も増えてきており、来年にはこの数字を超えそう。喫緊の対応として、待合室の拡張などを行う予定。
- ・ 滑走路延伸の計画や、それに伴うターミナルエリアや空港周辺をどうしていくか、広く検討が必要と考える。
- ・ 現状の増便への対応など、足元の課題も重要なので、しっかりと取り組んでいきたい。

② 空港運用時間拡大による効果及び課題

< 航空機発着間隔の確保 >

- ・ 運用時間拡大に伴う人員や機材、経費などの増加を踏まえて検討しなければならない。

< 除雪作業時間の減少 >

- ・ 今冬は便間除雪を実施したが、増便となると便間除雪が難しくなる。
- ・ 今冬は全便欠航となる日が無かったので、今後も引き続き除雪を強化してほしい。
- ・ 滑走路 1,800m を見据えると、除雪機材も最新のものを導入した方が良い。

< 航空機騒音調査と地域住民への情報提供 >

- ・ 航空機の騒音調査は空港周辺の 10 か所で毎年行っており、全ての地点で環境基準値を下回っている状況。今後増便することになっても、環境基準値を下回ることを確認し、ニュースレター等で情報提供を行っていく考え。

< 全体を通して >

- ・ 将来像では滑走路を延伸して 70 便程度まで増便していくことを想定しているが、現状でも増便が見込まれるため、各自持ち帰って課題を洗い出し、調整が必要なものについて議論していきたい。

(4) その他

< 次回会議の開催について >

- ・ 第 2 回の検討会について、4 月に札幌市内で開催する方向で別途調整。

以上